

2024 年度秋季 江東区柔道大会

# ワッショイ深川柔道まつり

日時 2024年9月29日(日)午前9:30開会式  
会場 江東区スポーツ会館 (大体育室)

## 大会次第

- 一. 開 会 宣 言
- 一. 国 歌 齊 唱
- 一. 大 会 会 長 挨拶
- 一. 大 会 名 誉 会 長 挨拶
- 一. 団 体 戦 優 勝 杯 返 還
- 一. 選 手 宣 誓
- 一. 試 合 上 の 注 意
- 一. 応 急 救 命 講 習
- 一. 競 成 表 技 表 式
- 一. 表 閉 績 彰 発 表 式 言
- 一. 閉 会 宣 言

主催 江 東 区 柔 道 会

後援 江 東 区  
江 東 区 教 育 委 員 会  
江 東 区 体 育 協 会

共催 特定非営利活動法人 全日本柔道普及会



## ご挨拶

大会名誉会長 江東区長

大久保 朋果



令和6年度秋季江東区柔道大会が盛大に開催されますことを、ご参加の皆様とともに喜び申し上げます。また、本大会の開催にご尽力された役員の皆様方に心より敬意を表します。

柔道は、国際スポーツとしての地位を確立し、世界の競技レベルも益々向上しています。今年パリでオリンピック・パラリンピックが開催され、世界各国のトップ選手同士の素晴らしい試合が数多く展開されました。本大会に出場される選手の皆さんも日頃の練習の成果を発揮し、悔いの残らないよう、全力で試合に臨んでいただきたいと思います。

結びに、本大会と江東区柔道会の益々のご発展を祈念するとともに、柔道を通じて区民の皆さんが交流し、健康で明るい地域づくりにつながるよう引き続きご尽力いただきますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

## たがいをリスペクト

大会会長 江東区柔道会長

河野 文彦



「ワッショイ深川柔道まつり」にご参加いただきありがとうございます。

大会名「ワッショイ」は「皆で仲良くしましょ<sup>みんな</sup>う」の意味をこめて名づけられました。

「ワッショイ」の「ワ」は、人と人とがやわら<sup>わ</sup>いで、なごむ「和」の心を表しています。

柔道は 分けへだてすることなくたがいに<sup>あ</sup>学び合い・教え合い・高め合う 優れた教育です。

皆でルールを守り、たがいに<sup>れいぎ</sup>礼儀をつくし、思いやりをもっておつき合いすることが大切です。

『たがいをリスペクト= Respect each other』を合い言葉に、世のために役立つ人材を、おおらかな人間性を、私たち皆で育ててまいりましょう。

## 本 部 役 員

名 誉 会 長 大久保朋果 (江東区長)  
 名 誉 顧 問 星野 博 (江東区柔道会名誉会長)  
 顧 問 本多健一郎 (江東区教育長)  
           梶原 克之 (江東区体育協会会長)  
           山本香代子 (江東区議会議長)  
           河野 暲子 (江東区柔道会顧問)  
 会 長 河野 文彦 (江東区柔道会会長)  
 副 会 長 星野 俊昌 (江東区柔道会副会長)  
           平井 幸雄 (江東区柔道会副会長)  
           徳安 秀政 (江東区柔道会副会長)  
 参 与 永井 昭次 川崎喜一郎 山内 重昭  
           永井多恵子 濱島 正剛 二宮 唯晃  
 運 営 委 員 長 星野 俊昌 (江東区柔道会理事長)  
 運 営 副 委 員 長 平井 幸雄 (江東区柔道会大会委員長)  
                   濱島 正剛 (江東区柔道会常任相談役)  
                   二宮 唯晃 (江東区柔道会常任相談役)  
 運 営 参 与 兼利 幸則 (江東区柔道会競技委員長)  
                   猪股 正治 (江東区柔道会監事)  
                   高橋 幸男 (江東区柔道会監事)

### 選 手 宣 誓

白石 莉菜  
(スボ館柔道倶楽部)

田中 祥元  
(スボ館柔道倶楽部)

## 競 技 役 員

◎印は主任

本 部 係	◎平井 幸雄 大久保 訓正	猪俣 正治 新堀 朱美	平松 良三	
受 付 会 計 係	◎二宮 唯晃	星野 俊昌	星野 節子	
進 行 放 送 係	◎加藤 秀幸			
救 護 係	長谷川 伸二 (公益社団法人 東京都整復師)	鈴木 哲朗		
式 典 係	◎長屋 学 星野 博	平野 行男 橋本 和佳	新堀 朱美 渡邊 神一郎	會田 常人
量 數 係	平井 幸雄 田中 裕治	中村 隆則 松川 厚史	鈴木 利康 新堀 英男	
賞 状 係	◎佐藤 光男	大久保 訓正	西村 佐知子 (スボ館OB)	
反 省 会	星野 俊昌	天地 正勝	平松 良三	
補 助 係	スボ館柔道倶楽部育成会 7名			
庶 務 係	櫻井 敬晋 原山 康昌 大久保 築 小瀧 勇児	清水 昌良 加藤 泰輔 栗本 裕嵩 桑名 和行	三谷 博和 平瀬 恵理子 小向 瑠七	大志保 隆広 福島 叶人 青木 太郎

## 試 合 場 係

統 括	佐藤 光男			
第 1 試 合 場	◎猪股 正治 スチーティ 海斗 (東陽中)	中村 隆則 飛田 一翔 (東陽中)	和栗 鈴 (東陽中) 松本 航太郎 (東陽中)	友利希 信 (東陽中)
第 2 試 合 場	◎天地 正勝 佐藤 礼隆 (三亀中)	深川 錬磨会 2名 関根 直樹 (三亀中)	稲山 邦昭	
第 3 試 合 場	會田 常人 田中 裕治	青葉中学 3名 松川 厚史	白石 彩華 (スボ館OB)	

## 審 判 員

審 判 長	濱島 正剛			
第 1 試 合 場	◎二宮 唯晃 内堀 紘徳	竹谷 知記 (深川警察) 鈴木 利康	高橋 幸男 田中 順士	内山 雅人 (関川道場) 森田 昌孝 (森田道場)
第 2 試 合 場	◎徳安 秀政 後藤 精一郎	新堀 英男 守田 久二	石留 靖之 (墨田区柔道会) 萩原 利夫 (西新井警察)	藤本 健太 (関川道場) 神谷 駿一 (日大一中)
第 3 試 合 場	◎長屋 学 野上 孝幸 (スボ館OB)	前瀧 大吾 (青葉中) 石井 賢利 (関川道場)	西巻 吉幸 (墨田柔道塾) 森川 誠 (城東警察)	平松 良三

## 2024年度江東区秋季柔道大会

# ワッショイ 深川柔道まつり要項

- ◆主催 江東区柔道会  
◆後援 江東区、江東区教育委員会、江東区体育協会
- ◆協賛 特定非営利活動法人 全日本柔道普及会
- ◆日時 2024年9月29日(日) 午前9時00分 集合  
午前9時30分 開会式
- ◆場所 江東区スポーツ会館 大体育室  
〒136-0073 東京都江東区北砂1-2-9 TEL 03-3649-1701
- ◆参加資格
1. 江東区柔道会が認定している柔道場・柔道クラブ・警察道場・各学校・地区体育施設等又は江東区外であって会員の推薦による責任者のいる団体及び当該団体に所属している者及び江東区に在住・在勤・在学する者で上記に準ずる者といたします。また、江東区以外の団体においての参加人数は合計で個人戦9名までとし団体戦は別とする。
  2. 監督・チーム・選手とも(公財)全日本柔道連盟に登録をしている指導者・団体・競技者(小学2年生以下の部は任意)とします。  
※ 全柔連登録番号(メンバーID)記載のない場合は、確認の上、出場を認めない場合がありますので、必ずID番号のご記入をお忘れのないようにお願いいたします。
  3. 幼年・小学1年生の部は、年長者とする。(幼年とは小学校入学1年前の学年までとする。)
  4. 中学生以下のものは、段外・初段・弐段の部に申し込むことはできません。
  5. 小学生道場対抗試合のチーム編成は、1団体(道場)1チームの出場とします。
  6. 小学生道場対抗試合の構成は、監督1名、選手5名とします。混成チームは認めません。選手の構成は、小学2年生から6年生まで各1名を先鋒から大将配列とし、男女・体重は制限しません。但し、下学年の児童が上学年の児童に代わって出場することは認めません。
  7. 選手変更は、原則として認めません。但し、負傷、病気等の突発的事故の場合は、医師の診断書を添えて、大会前々日までに事務局に届け出て下さい。
  8. 当日の事故等によって出場できなくなった場合は、欠員のままとします。
  9. 指導者は、選手に「禁止事項」等について、十分に理解させて下さい。
  10. 危険防止のため、休業期間の短い者は参加を見合わせてください。
  11. 皮膚真菌症(トングランス感染症)について発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
  12. 脳震盪対応について選手および指導者は下記事項を遵守すること。  
・大会1か月以内に脳震盪を受傷したものは、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。  
・大会中、脳震盪を受傷したものは、継続して当該大会に出場することは不可とする。(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること)  
・練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。  
・当該選手の指導者は、大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- ◆試合方法
1. 個人試合及び団体試合
  2. 試合方法は下記の通り、学年別・体重別・段位別等により、原則として、トーナメント方式で行います。
    - (1) 幼年・小学1年生の部(幼年とは小学校入学1年前の学年までとする。)
    - (2) 小学2年生の部
    - (3) 小学3年生の部
    - (4) 小学4年生の部

- (5) 小学5年生男子の部
  - (6) 小学6年生男子の部
  - (7) 小学5・6年生女子の部
  - (8) 中学1年生男子の部
  - (9) 中学2年生男子の部(有段者を含む)
  - (10) 中学3年生男子の部(有段者を含む)
  - (11) 中学生女子の部(有段者を含む)
  - (12) 一般女子の部(高校生以上、有段者を含む)
  - (13) 段外の部
  - (14) 初段の部
  - (15) 弐段・参段の部
  - (16) 小学生道場対抗試合
3. 団体試合は、各チーム5名の点取り対抗戦とし、試合毎のオーダー変更は認めません。
  4. 勝敗決定の方法は、次の通りとします。
    - (1) 勝ち数の多いチームを勝ちとします。
    - (2) 勝ち数が同じときは内容によります。
    - (3) 内容も同じときは、代表戦を1回行い、必ず優劣を決します。代表戦は、引き分け試合の中から、複数の場合は抽選により決定します。但し、引き分け試合がない場合は、代表者は任意とします。

- ◆審判規程
1. 試合は2024年4月現在の国際柔道連盟試合審判規程、国内における少年大会特別規程及び本大会申し合わせ事項によります。
  2. 審判員は主審1名、副審2名の3審制とし、試合場は32畳とします。
  3. 試合時間は、小学生以下は2分とし、中学生以上は3分とします。
  4. 勝敗の判定基準は、「一本」、「技あり」、「僅差」とします。得点差が無く、「指導」差が2以上あった場合は少ない選手を「僅差」の優勢勝ちとします。但し、「指導」を3回受けた場合は「反則負け」とします。
  5. 得点差が無く、「指導」差が1以下の場合は「引き分け」としますが、個人試合及び団体試合の代表戦では、旗判定により必ず勝敗を決し、延長戦(GS)は行いません。「技あり」2つで「一本」(技あり合わせて一本)として試合は終了する。
  6. 抑え込みの時間は、一本(20秒)、技あり(10秒)とします。
  7. 当日の審判長の説明による規程。

- ◆表彰
1. 個人試合各部の第1位より第3位迄を表彰し、賞状とメダルを授与いたします。
  2. 団体試合の第1位より第3位迄を表彰し、第1位にレプリカとメダルを授与いたします。
  3. 第1位～3位であっても、勝ち(不戦勝を除く)がない場合は表彰はありません。
  4. 参加者全員に参加賞を授与します。個人戦・団体戦両出場者へ重複授与はいたしません。

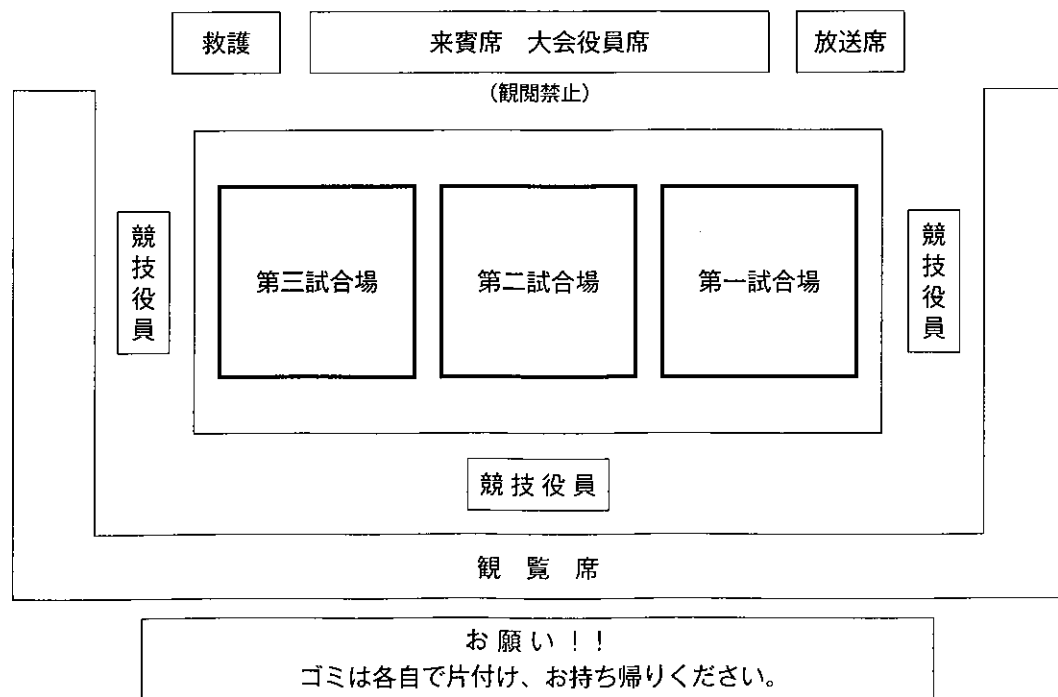
- ◆申込方法
- 各道場・団体の責任者は所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、江東区柔道会事務局宛に郵送又はFAXでお申し込み下さい。参加費は各道場・団体等で取りまとめて申し込み時に一括して下記にお振込み下さい。個人の申し込みは受付いたしません。当日の支払いは出来るだけ避けてください。
- (申込先) 江東区柔道会大会委員長 〒136-0073 江東区北砂6-20-2 平井幸雄方  
TEL & FAX 03-3644-4345 (携帯) 090-3060-0147  
(振込先) 三菱東京UFJ銀行 深川支店 (普通) 0133728  
シャ) コウトウクジュウドウカイ

- ◆参加費
1. 個人試合は、1名につき中学生以下1,000円、高校生以上1,500円とします。
  2. 団体試合は、1チームにつき3,000円とします。
  3. 参加費は、保険に加入するため、当日欠席でも返却は致しません。

◆申込締切 2024年8月4日(日) 必着厳守  
尚、締切日を過ぎた申し込み及び当日の申し込みや代理による参加は認められません。プログラムに記載されていない選手は参加できません。(団体戦の選手変更を除く)

- ◆ゼッケン
1. 選手はゼッケン(所属名と名字入り)を柔道着に必ず取り付けて着用してください。取り付けていない選手は出場できません。
  2. 布地は白色(晒・太綾)とします。
  3. サイズは、横30~35cm、縦25~30cmとします。
  4. 名字(姓)は上側2/3、所属名は下側1/3とします。所属名を所属道場名以外とする場合は、通学中学校名のみを認めますが、申込書の道場名に並べて( )で明記して下さい。プログラムにも記載します。
  5. 書体は太いゴシック体、又は楷書で横書きとし、男子は黒色、女子は濃赤色とする。
  6. 縫い付け位置は後ろ襟から約5~10cm下部とし、周囲と対角線に強い糸で縫い付ける。

- ◆注意
1. 主催者が、参加者全員に対して傷害保険に加入し、その費用を負担します。保険加入の為に必要な生年月日を申込用紙に必ず記入してください。尚、万一の事故発生に備えて、参加団体が別途傷害保険等に加入するなどして、万全の事故対策を立てて下さい。
  2. 大会中の不慮の負傷疾病については応急処置を施しますが、傷害保険の範囲内で責任を負うものとしします。
  3. 参加者は健康保険証を必ず持参して下さい。(コピー可)
  4. 参加申込書に記載された個人情報、参加資格の確認、組合せ抽選等をはじめとする大会運営業務のために使用します。記載された氏名・所属・身長・体重・年齢・段位・成績及び大会の試合写真等を大会プログラム、ホームページ等に記載されることをご了承のうえお申込み下さい。
  5. 大会会場には、大会用の駐車場はありません。車での来場はご遠慮下さい。
  6. ゴミは、各自で片付け、お持ち帰りください。
  6. 申込者の名前の確認をいたしますので、メールアドレスと携帯番号を必ず楷書でお願います。



## 2024年度 ワッシュヨイ深川柔道まつり 進行予定表

( )内の数字は試合数です。

第一試合場	107 試合	第二試合場	103 試合	第三試合場	113 試合
9:15 審判・役員打ち合わせ					
<b>開会式</b>					
応急救命講習(約20分)終了後試合開始					
幼年・小学1年生の部	(23)	小学2年生の部	(22)	小学3年生の部	(34)
小学6年生の部	(23)	小学4年生の部	(34)	小学5年生の部	(22)
中学1年生の部	(21)	中学2年生の部	(13)	小学5・6年生女子の部	(21)
		中学3年生の部	(10)		
団体戦 1-1	(5)	中学生女子の部	(9)	団体戦 3-1	(5)
団体戦 1-2	(5)	段外の部	(6)	団体戦 3-2	(5)
団体戦 1-3	(5)	初段の部	(4)	団体戦 3-3	(5)
団体戦 1-4	(5)	二段・三段の部	(5)	団体戦 3-4	(5)
団体戦 1-5	(5)			団体戦 3-5	(5)
団体戦 1-6	(5)			団体戦 3-6	(5)
団体戦 1-7	(5)			団体戦 3-7	(5)
団体戦 1-8	(5)				
閉会式準備					
<b>成績発表</b>					
<b>閉会式</b>					
畳会場片付け					
役員反省会					

\*時間は目安です。

\*進行状況により試合場の変更があります。

\*昼食時間での中断はありません。

【審判員・各団体の責任者の方は9:15分からの打合せにご出席をお願いいたします。】

幼年・小学1年生の部

(第一 試合場)



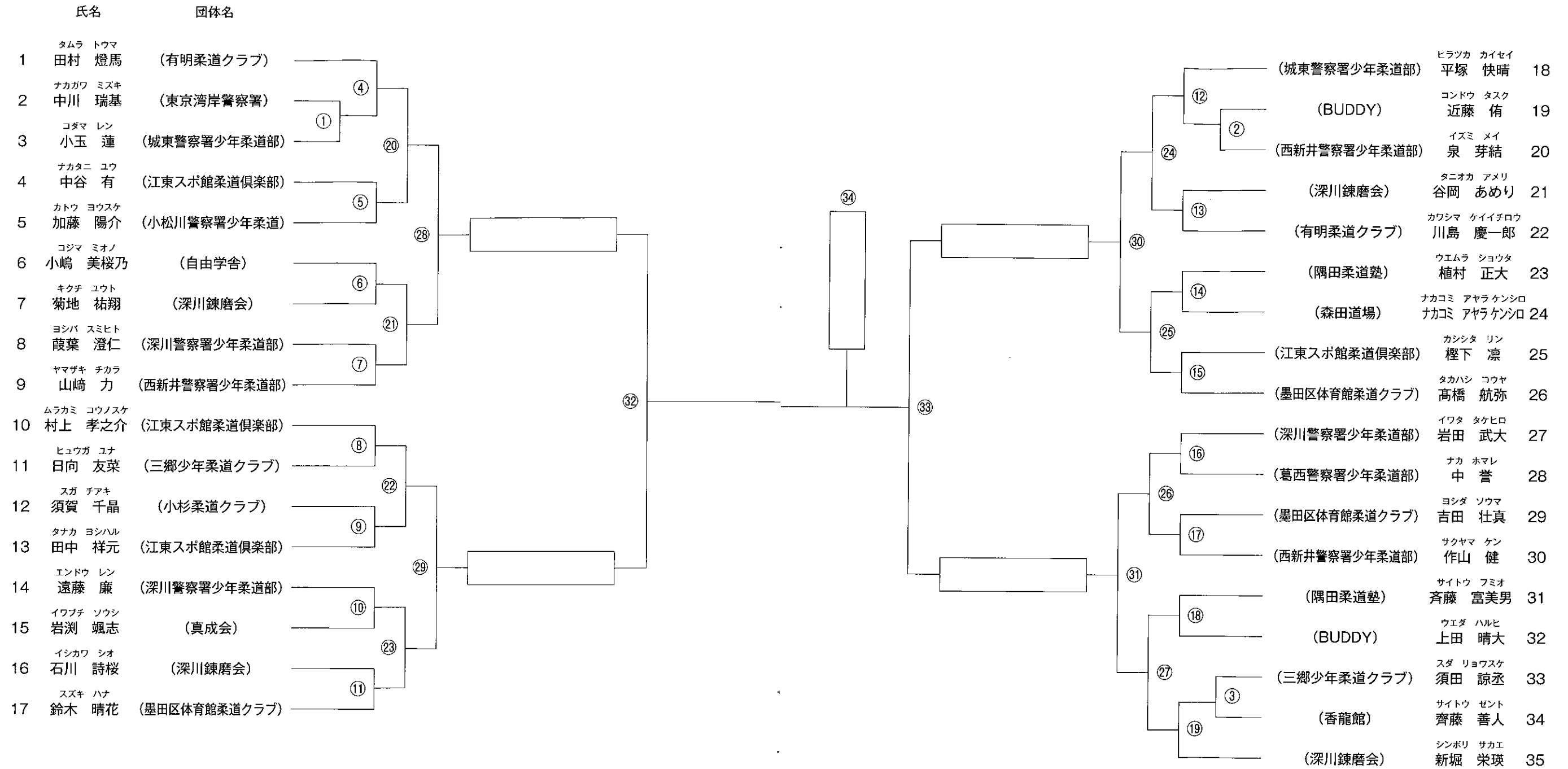
小学2年生の部

(第二 試合場)



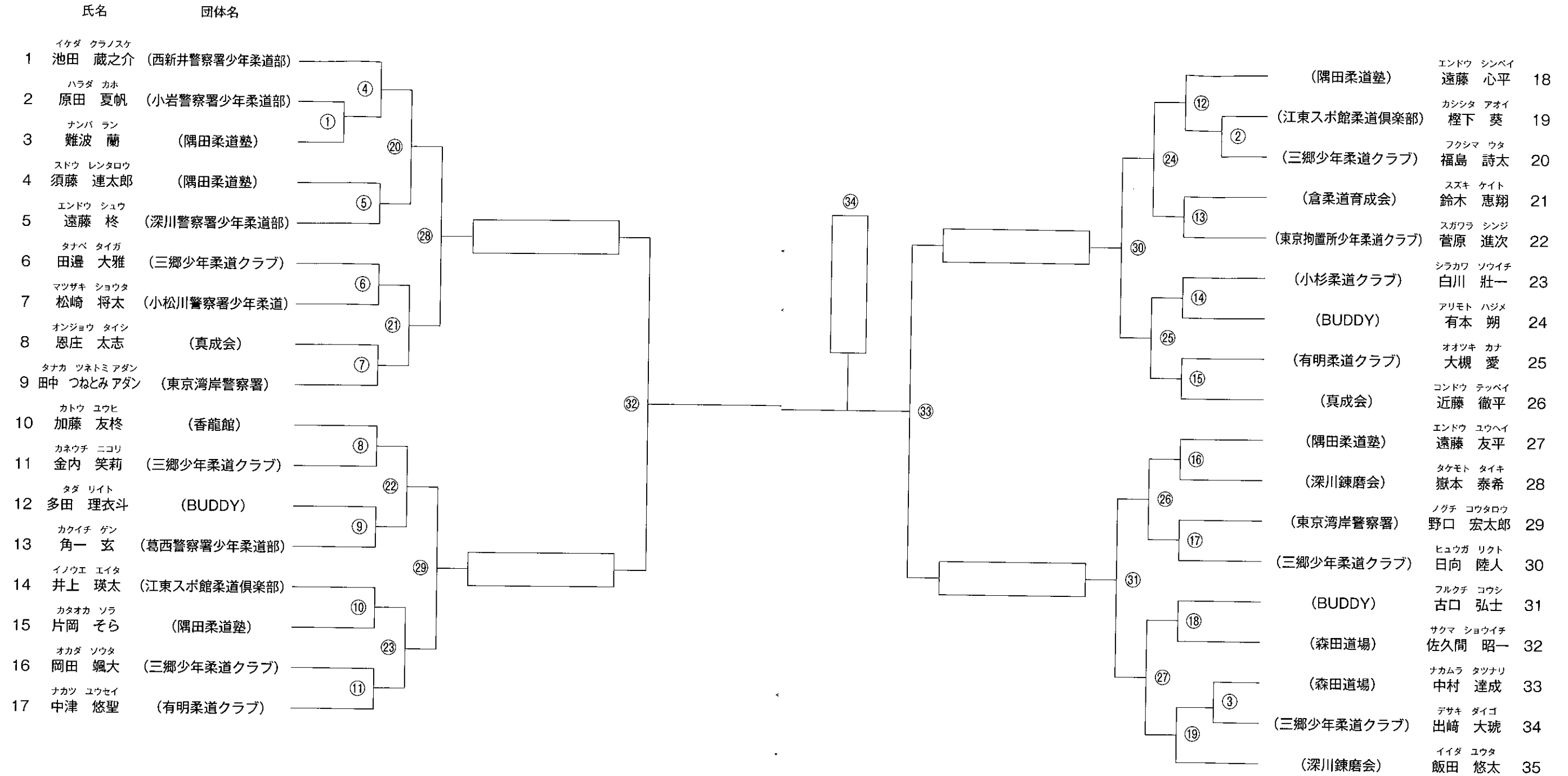
小学3年生の部

(第三試合場)



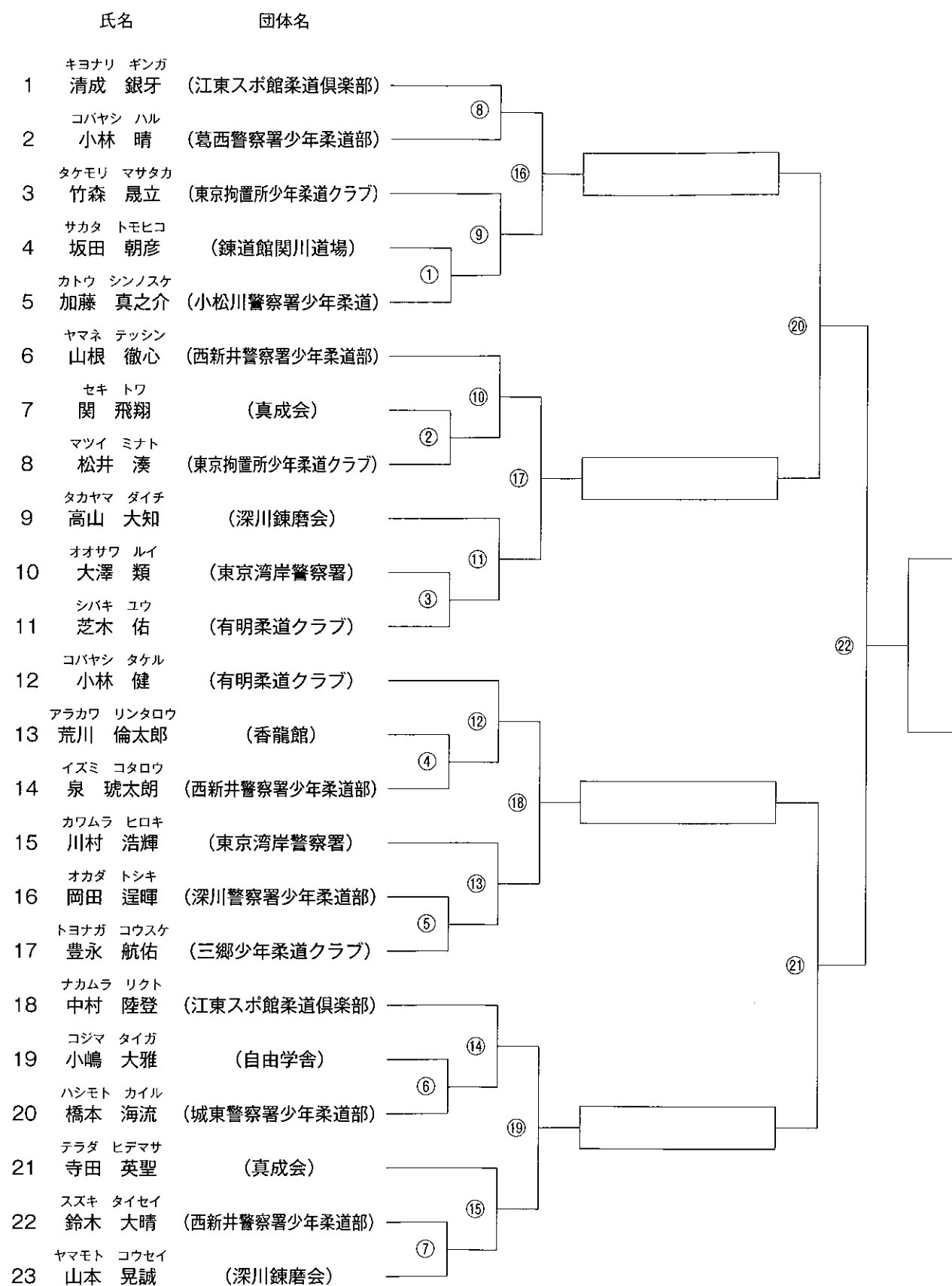
小学4年生の部

(第二試合場)

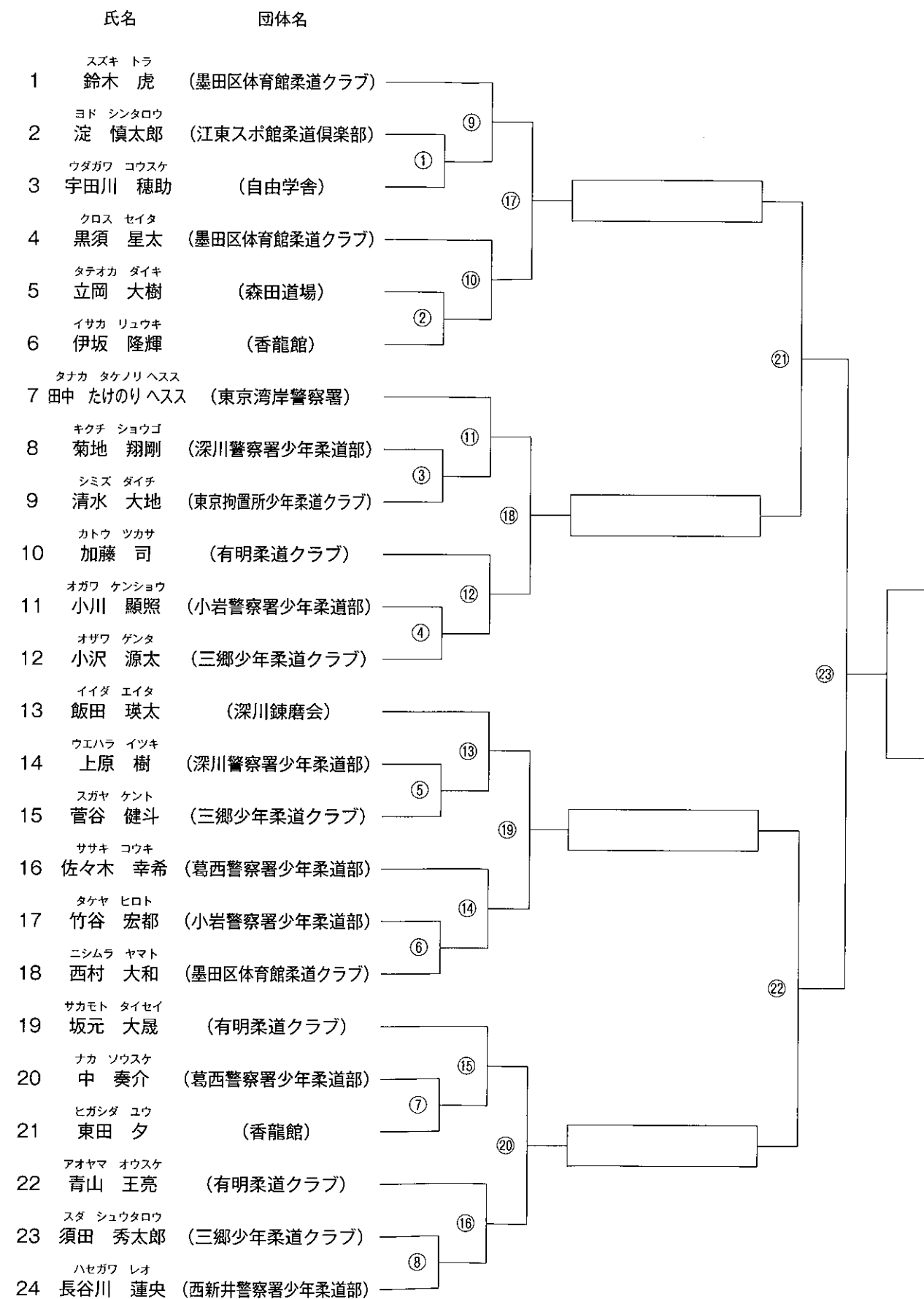




小学5年生男子の部 (第三試合場)

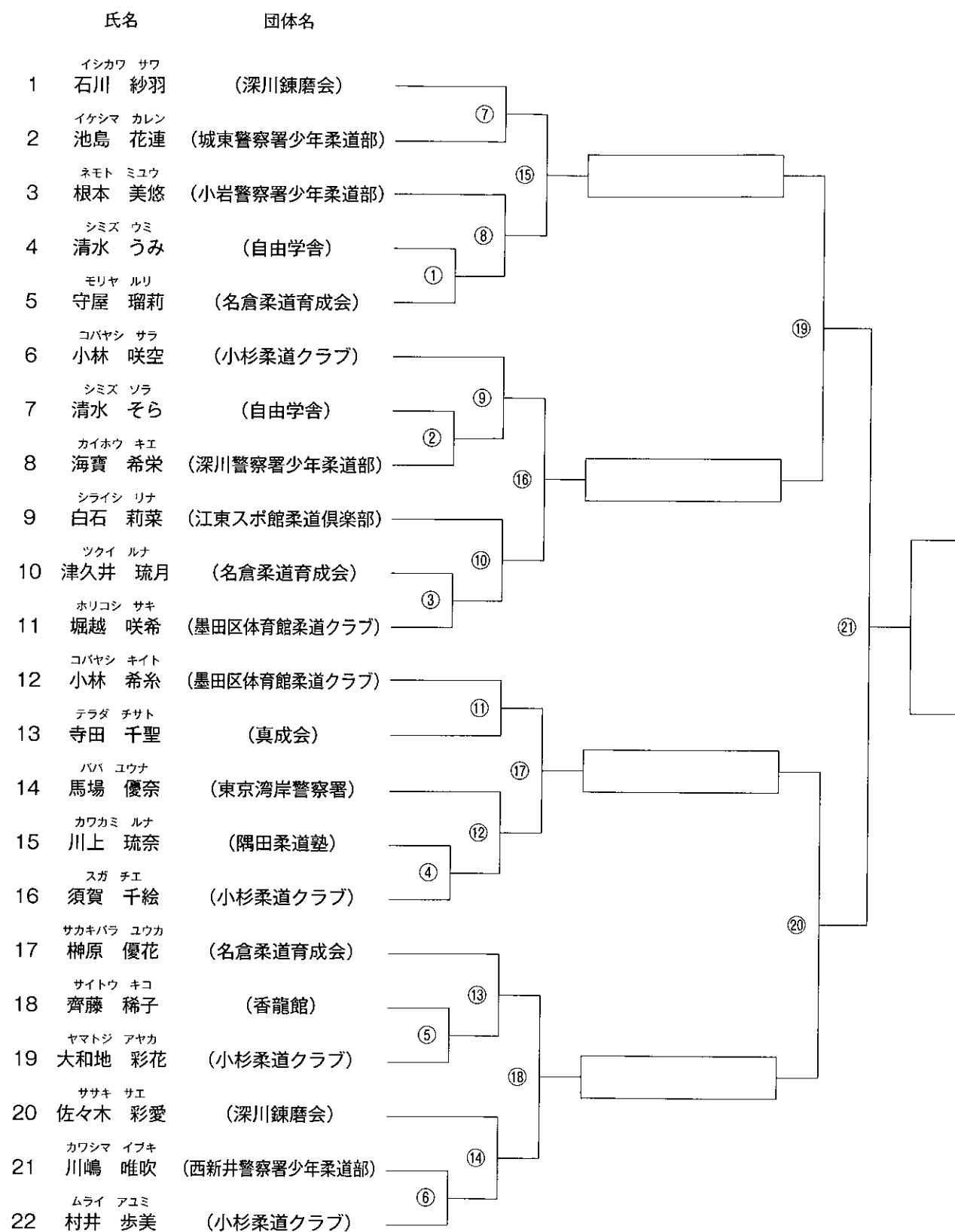


小学6年生男子の部 (第一試合場)



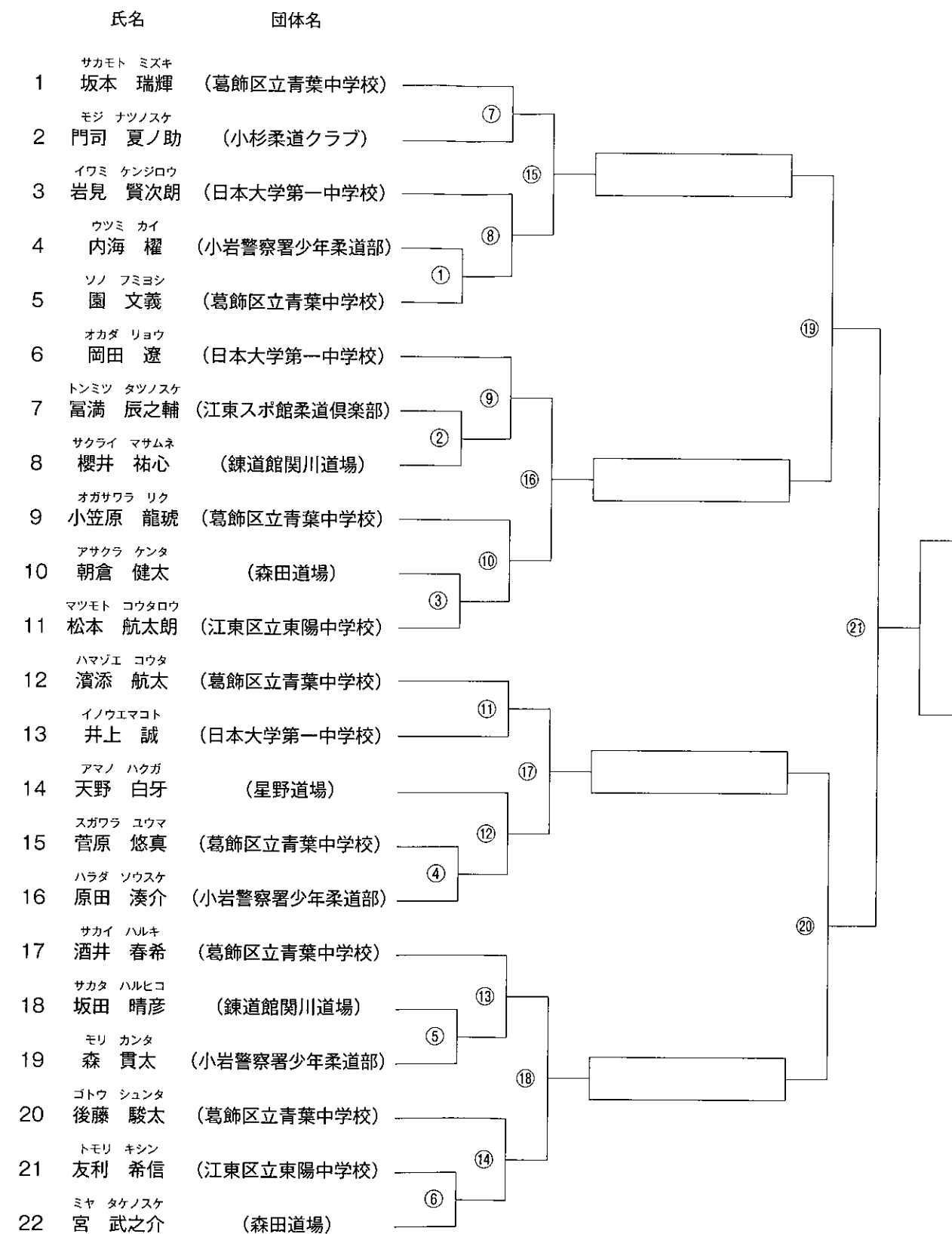
小学5・6年生女子の部

(第三試合場)



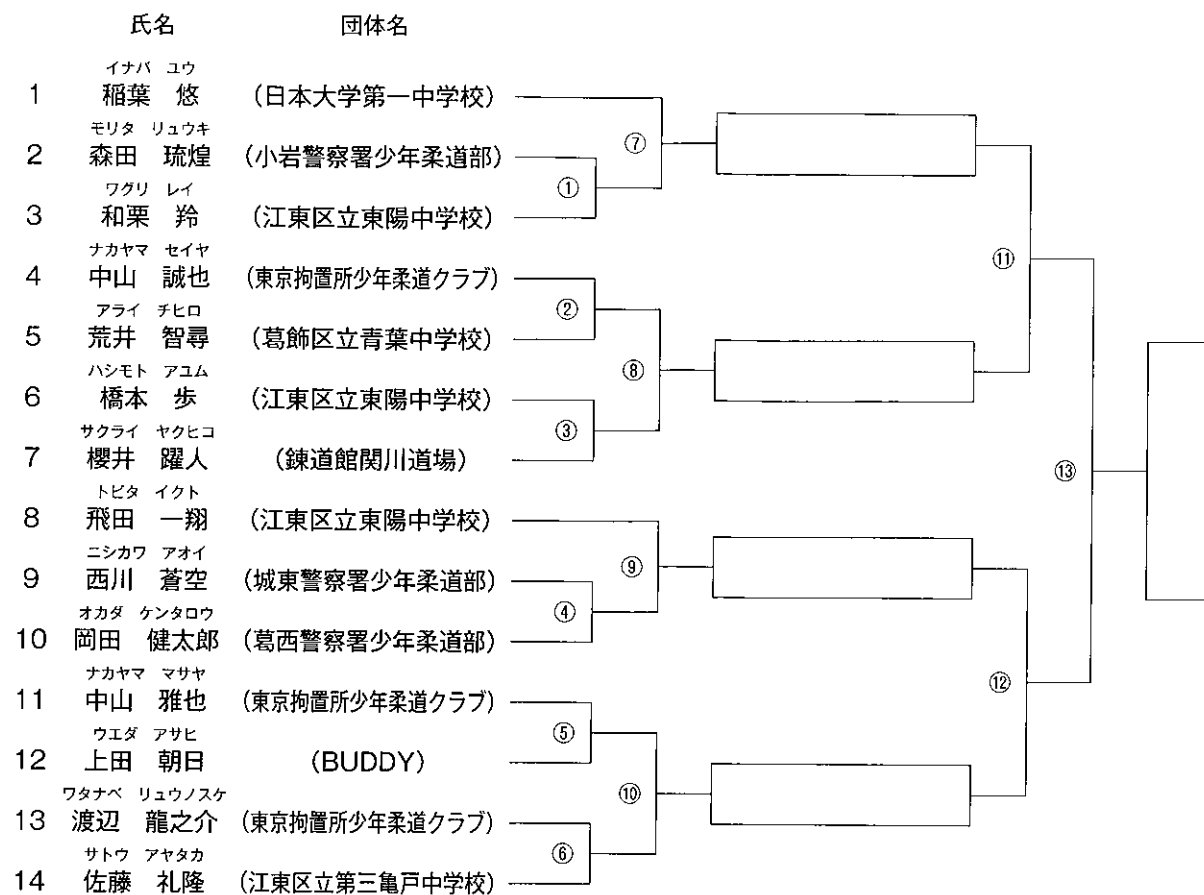
中学1年生男子の部

(第一試合場)



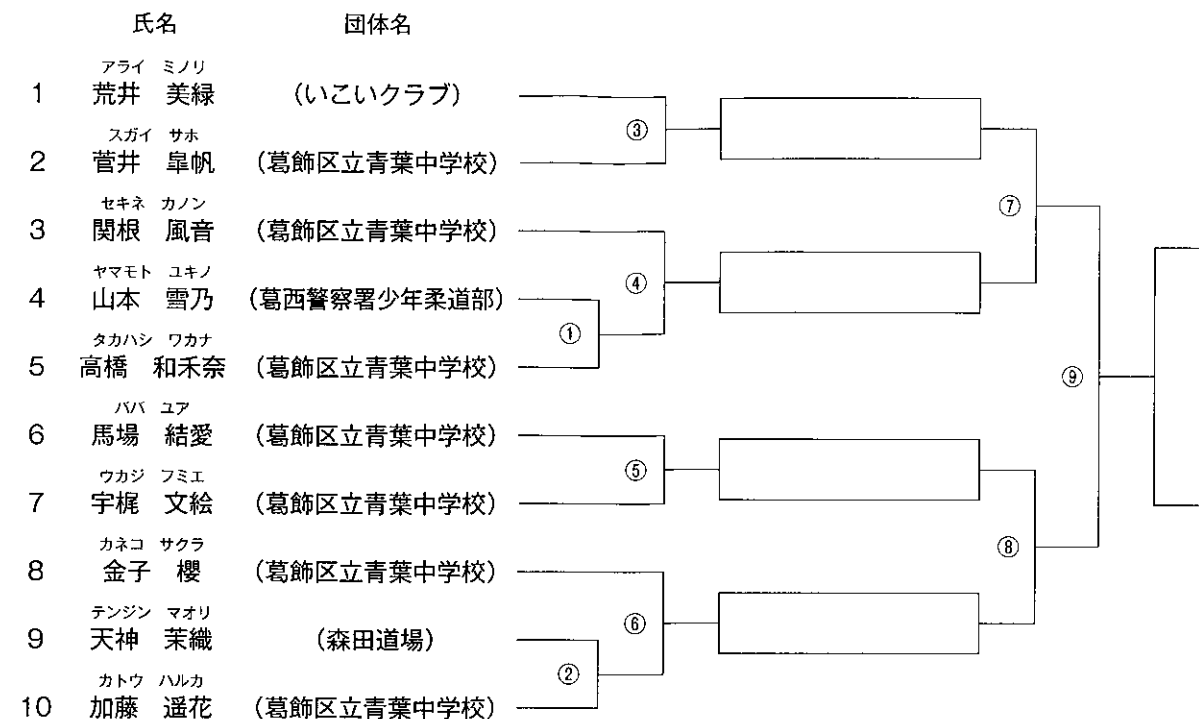
中学2年生男子の部

(第二試合場)



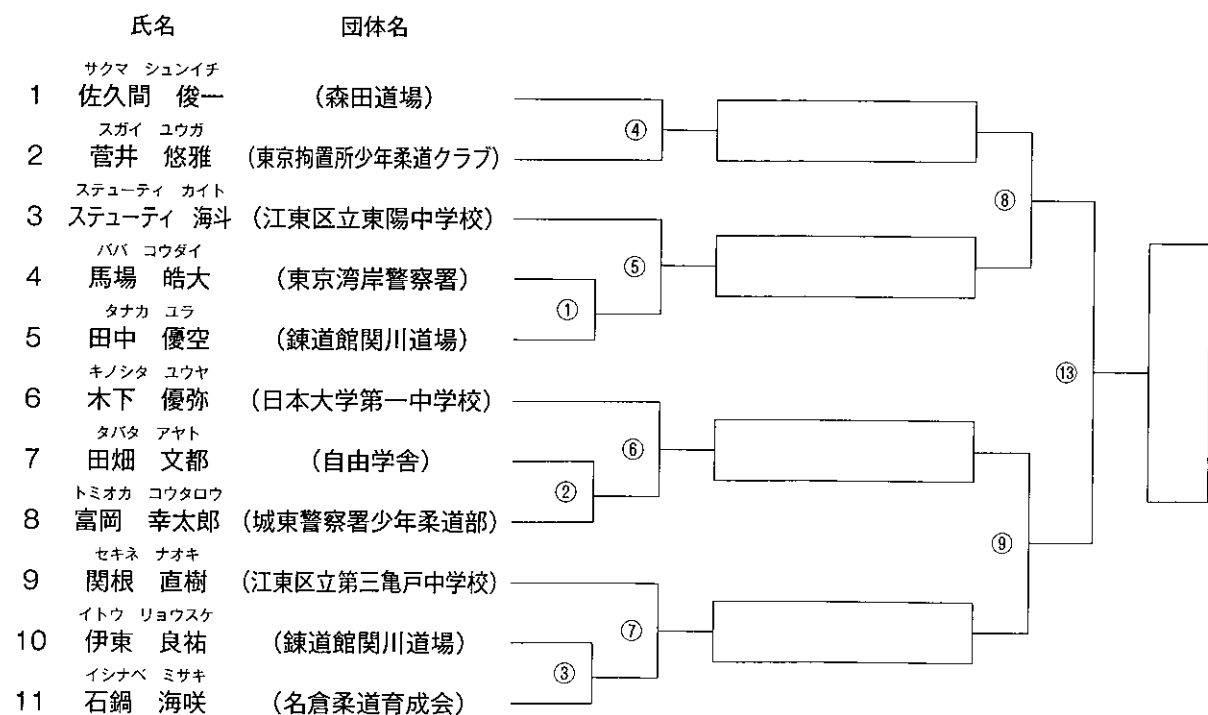
中学女子の部

(第二試合場)



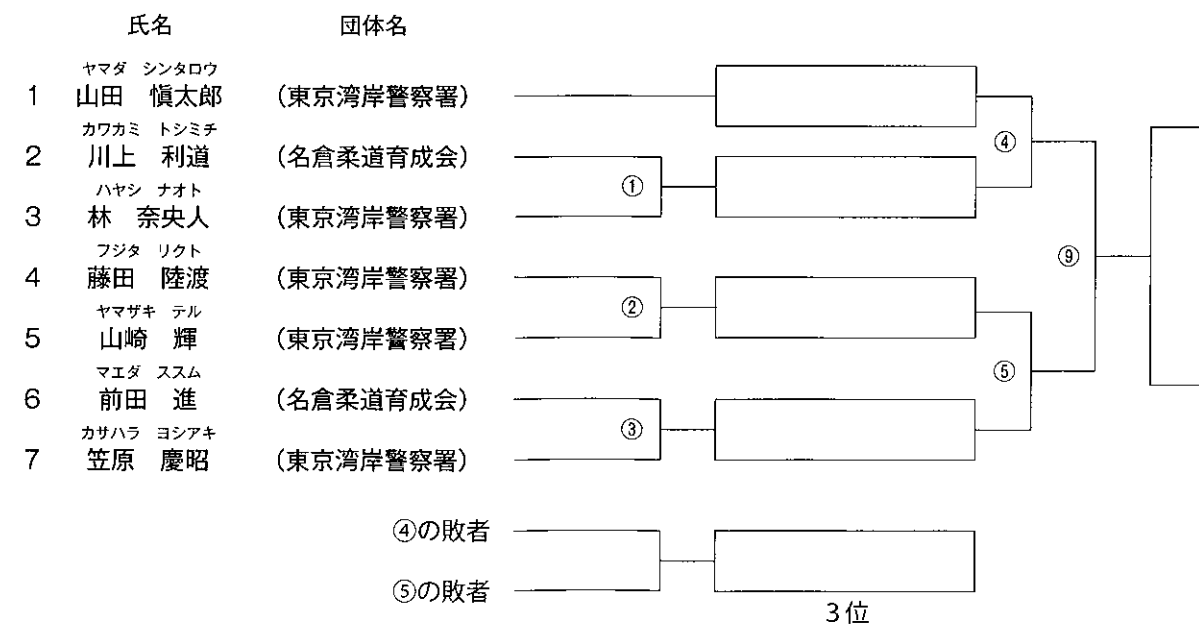
中学3年生男子の部

(第二試合場)



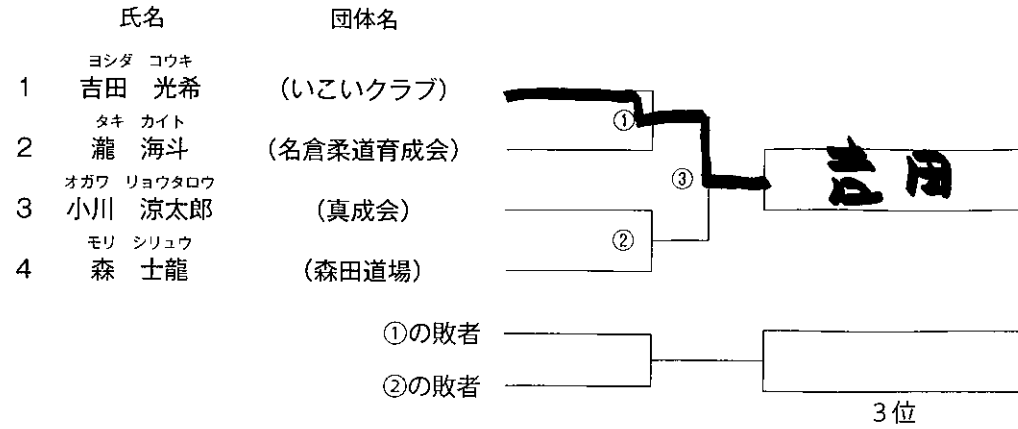
段外の部

(第二試合場)



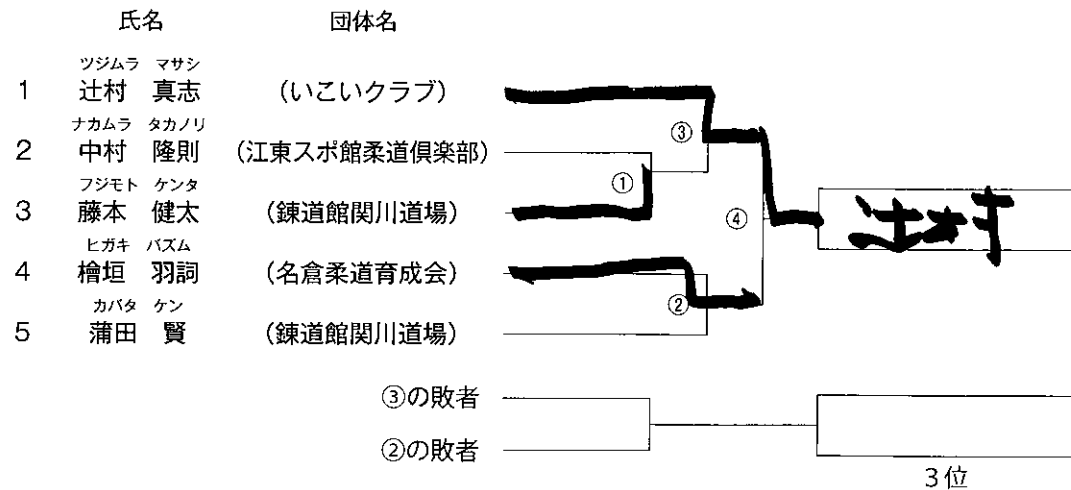
初段の部

(第二試合場)



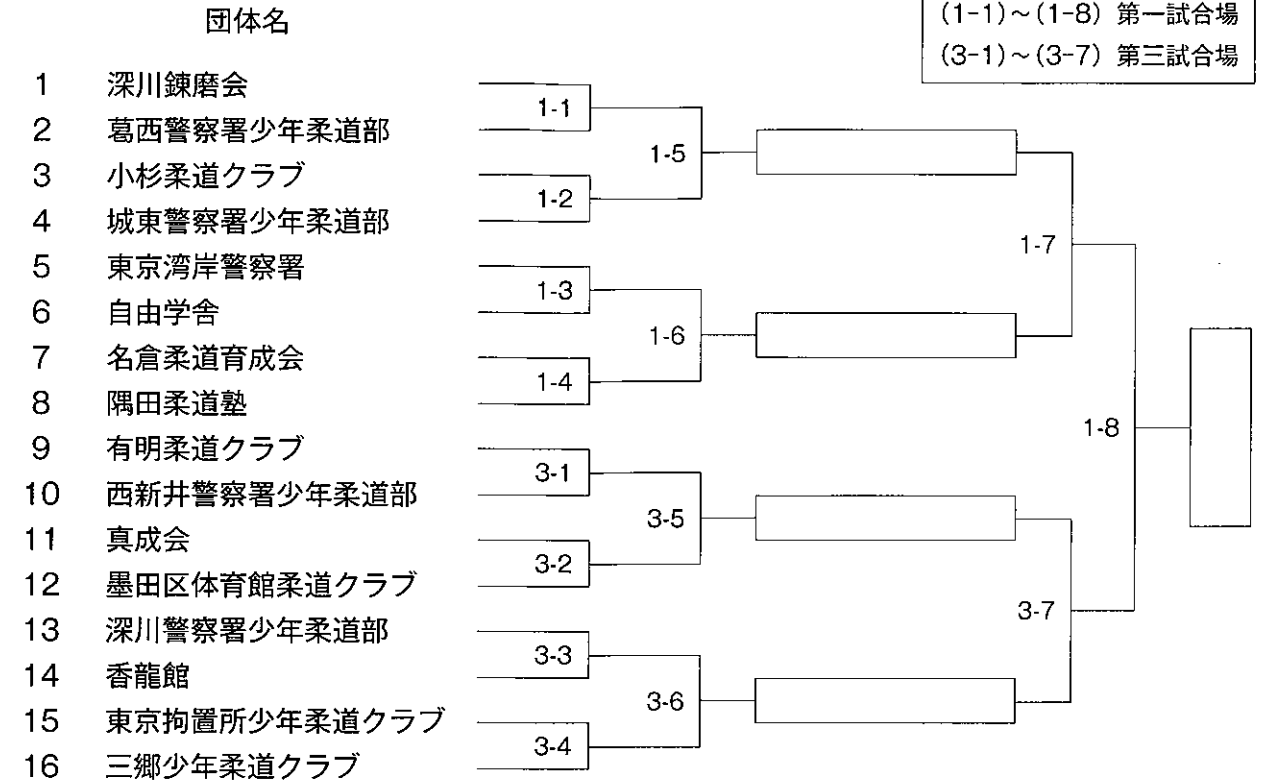
二段・三段の部

(第二試合場)



団体戦の部

(1-1)~(1-8) 第一試合場  
(3-1)~(3-7) 第三試合場



【団体戦メンバー表】

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
1 深川錬磨会	フルカワ トワ 古川 とわ	シンボリ サカエ 新堀 栄瑛	イイダ ユウタ 飯田 悠太	タカヤマ ダイチ 高山 大知	ヤマモト コウセイ 山本 晃誠
2 葛西警察署少年柔道部		ナカ ホマレ 中 誉	カクイチ ゲン 角一 玄	コバヤシ ハル 小林 晴	ナカ ソウスケ 中 奏介
3 小杉柔道クラブ	コバヤシ エマ 小林 咲舞	スガ ナアキ 須賀 千晶	シラカワ ソウイチ 白川 壯一	コバヤシ サラ 小林 咲空	ヤマトジ アヤカ 大和地 彩花
4 城東警察署少年柔道部	シマダ ゲン 島田 弦	コダマ レン 小玉 蓮	ヒラツカ カイセイ 平塚 快晴	ハシモト カイル 橋本 海流	イケシマ カレン 池島 花連
5 東京湾岸警察署	アサノ キョウスケ 浅野 杏輔	ナカガワ ミズキ 中川 瑞基	タナカ ツネトミ アダン 田中 つねとみアダン	オオサワ ルイ 大澤 類	タナカ タケノリ ヘスス 田中 たけのりヘスス
6 自由学舎		コジマ ミオノ 小嶋 美桜乃	フジノ コウセイ 藤野 晃正	コジマ タイガ 小嶋 大雅	ウダカワ コウスケ 宇田川 穂助
7 名倉柔道育成会	キタザト カズヨシ 北里 和義	サカキバラ ミユウ 榊原 美優	イシカワ シュン 石川 舜	イシヤマ レント 石山 蓮斗	サカキバラ ユウカ 榊原 優花
8 隅田柔道塾	カワナミ ショウゴ 川浪 正護	ウヰムラ ショウタ 植村 正大	エンドウ ユウヘイ 遠藤 友平	サカイ セイタ 酒井 晴大	ニシマキ ハルカ 西巻 春華
9 有明柔道クラブ		タムラ トウマ 田村 燈馬	ナカツ ユウセイ 中津 悠聖	コバヤシ タケル 小林 健	カトウ ツカサ 加藤 司
10 西新井警察署少年柔道部		ヤマザキ ナカラ 山崎 力	サクヤマ ケン 作山 健	ススキ タイセイ 鈴木 大晴	カワシマ イブキ 川嶋 唯吹
11 真成会	マツダ タイラ 松田 太良	イワブチ ソウシ 岩渕 颯志	オンジヨウ タイシ 恩庄 太志	セキ トワ 関 飛翔	テラダ ヒデマサ 寺田 英聖
12 墨田区体育館柔道クラブ	クロス セリナ 黒須 星利奈	スズキ ハナ 鈴木 晴花	ヨシダ ソウマ 吉田 壮真	ホリコシ サキ 堀越 咲希	ニシムラ ヤマト 西村 大和
13 深川警察署少年柔道部		イワタ タケヒロ 岩田 武大	エンドウ シュウ 遠藤 柊	カイホウ キエ 海寶 希栄	ウエハラ イツキ 上原 樹
14 香龍館	ワタリ ソウタツ 亘理 崇達	サイトウ ゼント 齊藤 善人	カトウ ユウヒ 加藤 友柊	アラカワ リンタロウ 荒川 倫太郎	ヒガシダ ユウ 東田 夕
15 東京拘置所少年柔道クラブ	サカモト マル 坂本 真琉	シモナカ ミナト 下中 湊斗	ムラコシ ツバサ 村越 翼	タケモリ マサタカ 竹森 晟立	ヤマト タイオウ 大和 大皇
16 三郷少年柔道クラブ	オカダ ミオ 岡田 美緒	スガ リョウスケ 須田 諒丞	デサキ ダイゴ 出崎 大琥	トヨナガ コウスケ 豊永 航佑	オサワ ゲンタ 小沢 源太

# 令和5年度秋季大会成績

令和5年11月19日(日) 江東区スポーツ会館

	優勝	準優勝	第3位	第3位
式段・参段の部	平野 雄大			
	深川錬磨会			
初段の部	森 士龍	小川 涼太郎		
	森田道場	真成会		
段外の部	山田 慎太郎	荒道 昇平	安齋 晋	
	東京湾岸警察署少年柔道部	東京湾岸警察署少年柔道部	真成会	
中学生女子の部	松井 渚	荒井 美緑	鈴木 麻央	金子 櫻
	葛飾区立青葉中学校	江東区立第三亀戸中学校	三郷少年柔道クラブ	葛飾区立青葉中学校
中学3年生男子の部	岩上 裕美	増田 一昂	佐藤 祐希	木村 政晴
	三郷少年柔道クラブ	東京拘置所少年柔道クラブ	三郷少年柔道クラブ	日本大学第一中学高等学校
中学2年生男子の部	野上 虎鉄	増山 龍太郎	有馬 良将	橋本 竜駆
	スポ館柔道倶楽部	隅田柔道塾	日本大学第一中学高等学校	自由学舎
中学1年生男子の部	田村 篤斗	佐藤 礼隆	渡辺 龍之介	中山 誠也
	スポ館柔道倶楽部	江東区立第三亀戸中学校	東京拘置所少年柔道クラブ	東京拘置所少年柔道クラブ
小学5・6年生女子の部	新堀 江姫	芝田 美紀	白石 莉菜	小林 希糸
	深川錬磨会	名倉柔道育成会	スポ館柔道倶楽部	墨田区体育館柔道クラブ
小学6年生の男子部	杉浦 均	内海 權	天野 白牙	森 飛翔
	隅田柔道塾	小岩警察署少年柔道部	星野道場	森田道場
小学5年生の男子部	植村 太一	大和 大皇	柳 豊正	飯田 瑛太
	隅田柔道塾	東京拘置所少年柔道クラブ	隅田柔道塾	深川錬磨会
小学4年生の部	川上 琉奈	稲葉 凱星	小林 健	田村 遥花
	隅田柔道塾	東京拘置所少年柔道クラブ	有明柔道クラブ	有明柔道クラブ
小学3年生の部	飯田 悠太	中津 悠聖	加藤 友柊	村越 翼
	深川錬磨会	有明柔道クラブ	香竜館	東京拘置所少年柔道クラブ
小学2年生の部	新堀 栄瑛	田村 燈馬	下中 湊斗	榊原 美優
	深川錬磨会	有明柔道クラブ	東京拘置所少年柔道クラブ	名倉柔道育成会
幼年・小学1年生の部	荒川 玄次	山田 空	金子 将大	田中 さくら
	香竜館	パディ柔道クラブ	パディ柔道クラブ	東京湾岸警察署少年柔道部
<本部杯> (会長杯)	平野 雄大			
	深川錬磨会			
<最優秀賞>				
<技術優秀賞>	新堀 江姫	野上 虎鉄		
	深川錬磨会	スポ館柔道倶楽部		
小学生団体戦	深川錬磨会	東京拘置所少年柔道クラブ	隅田柔道塾	香竜館

# 第78回(令和6年度)江東区民体育大会柔道大会成績表

令和6年6月2日(日) 江東区スポーツ会館

	優勝	準優勝	第3位	第3位
幼年・小学1年生の部	栗城 英一朗	恩庄 ミハイル 晃	安原 成悠	岡本 星
	BUDDY	BUDDY	BUDDY	BUDDY
小学2年生の部	山田 空	田中 さくらモンセラ	神谷 幸之助	金子 将大
	BUDDY	東京湾岸警察署	BUDDY	BUDDY
小学3年生の部	新堀 栄瑛	石川 詩桜	田村 燈馬	成田 晴太
	深川錬磨会	深川錬磨会	有明柔道クラブ	城東警察署少年柔道部
小学4年生の部	飯田 悠太	中津 悠聖	多田 理衣斗	嶽本 泰希
	深川錬磨会	有明柔道クラブ	BUDDY	深川錬磨会
小学5年生の部 男子の部	高山 大知	小林 健	橋本 海流	
	深川錬磨会	有明柔道クラブ	城東警察署少年柔道部	
小学6年生の部 男子の部	加藤 司	飯田 瑛太	田中 たけのり ヘスス	
	有明柔道クラブ	深川錬磨会	東京湾岸警察署	
小学5・6年生 女子の部	石川 紗羽	佐々木 彩愛	田村 遥花	
	深川錬磨会	深川錬磨会	有明柔道クラブ	
中学1年生の部	友利 希信			
	江東区立東陽中学校			
中学2年生の部	佐藤 礼隆	和栗 鈴	橋本 歩	飯田 颯太
	江東区立第三亀戸中学校	江東区立東陽中学校	江東区立東陽中学校	深川錬磨会
中学3年生の部 (有段者を含む)	田口 ルイ	増田 優大	関根 直輝	ステューティ 海斗
	深川錬磨会	城東警察署少年柔道部	江東区立第三亀戸中学校	江東区立東陽中学校
中学女子の部 (有段者を含む)	新堀 江姫	待場 一乃	荒井 美緑	
	深川錬磨会	築地警察署少年柔道部	いこいクラブ	
一般女子の部 (高校生以上、有段者を含む)	白石 彩華			
	江東スポ館柔道倶楽部			
一般男子段外の部	荒道 昇平	栗城 英典	嵩下 慧	
	東京湾岸警察署	BUDDY	東京湾岸警察署	
一般男子初段の部				
一般男子式段の部	渡邊 理恩			
	深川錬磨会			
一般男子参段の部	吉原 大智			
	スポーツひのまるキッズ協会			
小学生団体の部 (オープン)	深川錬磨会	東京湾岸警察署	有明柔道クラブ	

## 江東区柔道会の目的

江東区柔道会（本会）は、1882年柔道の創設以来 教育者<sup>かのうじごろう</sup>嘉納治五郎師範が掲げた『己の人格を完成して世の中の役に立つ人になる』という柔道修行究極の目的に基づき、1951年に組織されました。

2024年 本会は『柔道は教育である』という原点に立ち返り、柔道に親しむ江東区民の皆様と共に健康で安全安心な柔道の普及振興を目指して、将来へ持続すべき伝統を確立し時代に応じた革新を進めることを活動の目的といたします。方針は以下のとおりです。

- 1 礼の精神を深め礼法を正しく行って品格を養い、「<sup>はんがくはんきょう</sup>半学半教」（互いに学び合い、教え合い、認め合い、高め合う教育）の実践をすることを活動の根幹とします。
- 2 「<sup>せいりよくぜんよう</sup>精力善用・<sup>じたきょうえい</sup>自他共栄・<sup>じゆんどうせいしょう</sup>順道制勝」の精神を体現し応用することによって、より健全な人格形成と平和な社会構築に貢献します。  
精力善用（モラル）……………社会がより良くなるよう、心と体の力すべてを良いことに使いましょう。  
自他共栄（マナー）……………自分だけでなく皆が良くなるよう、互いに信頼し合い助け合いましょう。  
順道制勝（フェアプレイ）…ルールを守り互いを尊重し合い、人の道に正しく柔道をしましょう。
- 3 暴力・暴言・差別・ハラスメントなどを一切排除し、「柔軟な発想と他者への理解」を第一にして、同一の中の多様を尊重します。

## 嘉納治五郎師範遺訓

柔道は心身の力を最も有効に使用する道である

その修行は <sup>こうげきぼうぎょ</sup>攻撃防禦の練習に山って <sup>しんたいせいしん たんれんしゅうよう</sup>身體精神を鍛練修養し

<sup>しどう しんずい たいとく</sup>斯道の神髓を體得する事である

さうして <sup>これ よ おのれ</sup>是に山って己を完成し <sup>ほえき</sup>世を補益するが

<sup>きゅうきょう</sup>柔道修行の究竟の目的である

# 柔道界から 暴力・パワハラ・セクハラ をなくそう!



(公益財団法人)全日本柔道連盟 コンプライアンス委員会

## これまでのコンプライアンス委員会活動状況とリーフレット作成の目的

全日本柔道連盟は、2013年8月に「暴力行為根絶宣言」の発出とともに「コンプライアンスホットライン」「目安箱」を制定し、「柔道における暴力の存在は決して許さない」という強い決意のもと、柔道指導者に限らず柔道を行うすべての者に対し、いかなる暴力行為も行わないことを強く求めてきました。加えて、2015年5月に「暴力・体罰・セクハラ問題を学ぶためのガイドブック」を発行し、2018年10月には「柔道界からパワハラをなくそう」リーフレットを発刊、全柔連HP・大会プログラム等に広く掲示し、「暴力・パワハラ・セクハラ」のない柔道界を目指してきました。

しかし、一時は改善の兆しを見せたかに思えた「暴力・パワハラ・セクハラ」問題でしたが、「選手の能力向上のためには指導の中で暴力も必要である」と妄信する指導者や年長者による問題

行為は収まることなく、今日までに多くの「暴力・パワハラ・セクハラ」等事案を処分の対象としてきました。また、表に出て処分の対象になった事案だけでなく、「指導とパワハラの境界線が不鮮明」と捉えてしまい、「指導の一環である」として表面化しない問題事案も多く存在すると言われています。

今回のリーフレットでは、実際に柔道指導に当たっている指導者が持っている「自分の指導は、大丈夫だろうか?」という問いに答えるべく、過去にあった事例を取り上げ、より具体的に、「自分自身にも起こりうること」として考えることができるようにすることを目標にしました。

このリーフレットが、柔道指導者がより良い指導を実現する一助になれば幸いです。

## 柔道界における

# 暴力 パワハラ セクハラ

## 最近の主な実例

分類	内容	
① 身体への攻撃	<p><b>暴行・傷害を発生させる行為(必要以上に強く投げたり、マイッタしても絞め続ける行為も含む)</b></p> <p>Q1 指導の一環であれば、多少殴ったり、けったりしても良いのではないですか?                      Q2 体罰は愛のムチであり、選手も親も望んでいます。「勝たせるため」にしているのだから許されますよね?                      Q3 生徒の言動に大きな問題(悪ふざけ、いじめ等)がありました。このような場合、体罰も必要ではないですか?</p> <p><b>事例1</b> 顧問が練習中、気合いが入っていない部員の顔をプラスチック製バットで殴打し、ケガを負わせた。  <b>事例2</b> 監督が選手の試合に臨む態度、結果が気に入らなると、出場した2名に対して顔を平手打ち、足蹴り、突飛ばす等の暴力行為を行った。  <b>事例3</b> 生徒が絞め技・関節技に弱いことを懸念した指導者が、「自分たちもこの厳しさを乗り越えて強くなった」という信念で、乱取り稽古中に何度も生徒を絞め技で失神させた。</p> <p><b>Answer</b> 「暴力行為や暴言、精神的圧迫などで威嚇して、自分の言うことを聞かそうとする行為」は、虐待的行為として社会的に大きな問題とされています。残念ながら、柔道活動の現場では、「性根を叩きなおす」「気合を入れる」「愛のムチ」等の言葉を大義名分に、指導の為に必要なことであると黙認されることがあります。しかしながら、現代社会において決して許されるものではありません。指導者自身が学ぶことを忘れず、選手との対話を通して、言葉での説明や手本を示すことで指導し、本人の気づきを大切にしながら励まして行くといった指導を心掛けましょう。</p>	
	② 精神的な攻撃	<p><b>脅迫・名誉棄損・侮辱・暴言・ひどい叱責(人格を否定するような言葉、むやみに怒鳴る行為も含む)</b></p> <p>Q1 高い目標を達成するためには、集中力が必要です。「気を抜いたり、ミスをするとう指導者に叱られる」という緊張感が必要なのではないですか?                      Q2 指導者の「熱い思い・情熱」を選手たちに伝える為、あえて怒鳴ったり、厳しい言葉で叱責することは必要なことではないですか?</p> <p><b>事例1</b> ある柔道部顧問は練習態度や試合結果が気に入らなると、「死ぬ」「殺す」「ごみ」などの罵声を繰り返して浴びせた(暴力・体罰を伴う)  <b>事例2</b> ある選手が、部のルールに違反した。指導者は、「連帯責任」という名目で、同学年の選手全員を寮の外出禁止とし、食事当番や電話当番を強制したため、選手は学生の本分である授業や練習に出ることができなくなった。  <b>事例3</b> ある指導者は、気に入らない選手が挨拶しても無視し、アドバイスを求めても「お前にはしない」と言い放った。</p> <p><b>Answer</b> 当然、相手を侮辱したり、差別発言を繰り返すことは、パワハラとなります。指導者としては、「反発心を力に変える」「気合を入れなおす」「叱咤激励する」といった考えで、あえて大声で怒鳴ったり、汚い言葉を使っているつもりでも、選手は自尊心を傷つけられ精神的に落ち込むことが多いものです。暴言によって生徒や選手が精神的に追い込まれ、自殺に至ったケースもあります。暴言は、ときに人権侵害に結びつくのです。スポーツ指導においては、肯定的な言葉がけや矯正を目的とした言葉がけが重要であるとされています。それはまた、主体的に考え行動できる選手を育てることにつながります。指導者と選手に上下はなく、対等な関係であるという意識を持ち、一般社会で受け入れられる言動を心がけ、互いに気持ちよく活動できる環境をつくりましょう。</p>



3 人間関係からの切り離し

隔離・仲間外し・口をきかない等の行為(無視、練習相手をしない、指導をしない行為も含まれる)

- Q1 生意気で指導者の言うことを聞かない選手には、その行為が皆に迷惑をかけることをわからせるために無視することも必要なのではないですか？
- Q2 部の伝統に逆らったり、集団の輪を乱す部員には、「試合に出さない」「稽古に参加させない」等の罰は、必要なのではないですか？

- 事例1 先生から急な連絡を受けた上級生が、「練習に遅刻を繰り返す」「指示されたことを守らない」下級生にだけわざと、練習場所や時間の変更を伝えなかった。
- 事例2 ある指導者が選手に対し、「俺の前でよく柔道ができるな」「あんな身勝手な奴とは稽古するな」等の理不尽な発言を繰り返し、稽古をさせなかった為、選手は孤立した。

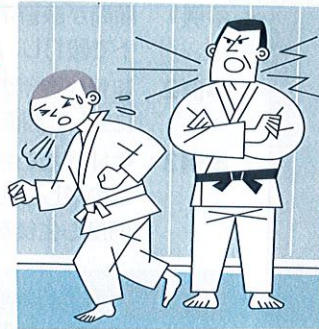


Answer 指導者の方針に従わない選手に対して、「無視」「稽古に参加させない」「試合に出さない」等によって、集団から孤立させる行為は、パワハラとなります。これが、「いじめ」等に発展し、退部や転校等につながれば社会的問題にもなりかねません。上下関係による「強制と服従」での指導は、選手が自発的に柔道を楽しむ権利を奪い、「選手自らが考え工夫する力」を育むことを阻害してしまいます。指導者は、「自分が一番正しいという妄想」を改め、他の人の意見にも耳を傾け、常に学び続ける姿勢を持ちましょう。

明らかに不要なことや実行不可能なことを要求すること(合理的な理由のない過度な練習も含む)

- Q1 ある選手が手を抜いた稽古をしたので、罰として猛暑の道場で倒れこむまで打込みをさせました。気合を入れる為には、問題ないですか？
- Q2 勝敗を決めるのは、最後は精神力です。最後に勝てる強い選手を育てる為、限界を超えるくらいの練習をさせることは、問題ないですか？

- 事例1 ある指導者は、試合で負けると、人が変わったように不機嫌になり、次の練習時に、腕立て伏せ千回、スクワット千回、打ち込み千回等の、過度な練習をさせるので、生徒や保護者は怪我をしないかとても不安だが、怖くて言いだせない。
- 事例2 ある指導者は、なかなか技の要領を覚えられない生徒に対していらだちを隠せず、「ろくに柔道の稽古ができないやつは、グラウンドでも走っている」とつきはなし、その後3時間もランニングを続けさせた。夏の暑い日で、あやうく熱中症になるところだった。



Answer ただ単に「精神力を高める」「根性をつける」等のために、厳しい稽古・長時間の練習を強いることは、パワハラというべきレベルだと考えられます。「過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高めること」をよく理解し、「柔道の特性等を踏まえた科学的指導法」を学んだ上で、個人差等にも配慮して練習メニューを設定しましょう。指導者は最新の指導法を学び、選手が競技として柔道をしている間だけでなく、競技を終えた後も「生涯柔道」を楽しむことができるような指導を心掛けましょう。

合理的な理由なく、程度の低いことをさせる、活動をさせない等の行為(1人だけ別メニューも含む)

- Q1 指導方針にいちいち異を唱える選手に対し、「私の方針に反対なら、何もするな」と言い、見取り稽古だけにしました。問題ないですか？
- Q2 ちょっとしたことでもケガをしたといってくる選手がいます。煩わしいので、「元立ち」や「投込み」はさせません。問題ないですか？

- 事例1 ある柔道部では、選手の練習にのぞむ態度が少しでも気に入らないと、「もう何もしなくていい」「道場の隅で正座でもしてる」「帰れ」「道場の外に出て入ってくるな」と冷たく言い放つ為、練習の雰囲気が悪くなり、みんな徐々にやる気を失っている。
- 事例2 ある指導者は、指導に従わない道場生に対し、みんなが見ている前で「俺の言うことが聞けないなら、道場から出ていけ」と追い出したがり、その後何のフォローもしなかった。



Answer 合理的な理由なく、「仲間とは違う程度の低いメニューを行わせる」「活動をさせない」等の行為は、「いじめ」「仲間外れ」に類する行為でパワハラとなります。また、「人間関係からの切り離し」に近い性質も持っています。どうしても、ある選手だけを別メニューにする必要がある時は、「どうして、その選手だけが違う練習をしなければならないのか」、その理由を本人だけでなく仲間にも丁寧に説明し、全体が納得した上で行うようにしましょう。

4 過大な要求

5 過小な要求

私的事項に過度に立ち入ること。家族関係・恋人の有無・休日の予定等、私的領域に踏み込む行為

- Q1 選手の生活を正しく管理することは、指導者の大事な役割です。プライベートなこともすべて知っておく必要があるのではないですか？
- Q2 試合で結果が出ない選手に対して、柔道の邪魔になる「男女交際」をやめるように言いました。問題ないですか？

- 事例1 ある先輩が、柔道部の上下関係を利用して、新入生のプライバシー(恋人、家族関係など)に立ち入ってきて、いろいろなことを言うので後輩たちは皆まいてる。
- 事例2 ある指導者は、必ず親の職業を聞きだし、職によっては自分に便宜を図るように仕向けさせるので評判が悪い。



Answer 上司と部下、教師と生徒、先輩と後輩、指導者と教え子等の関係性において、「私的事項に過度に立ち入る」といったことが起こることがあります。柔道の指導とは全く関係がないのに、立場を利用して、家族関係、恋愛関係、休日の予定等のプライベートなことについて詮索することは、ハラスメントとなります(その行為が、男女関係に発展させることを意図したものであればセクハラ)。また、個人情報相手の許可なく漏洩することは違法な行為となる場合があります。「立場を利用して、無意識にプライベートを詮索していることもある」ということを意識して行動しましょう。

当事者の意に反した性的な性質の言動を行うこと。それによって一定の不利益を与えたり、活動環境を悪化させること

- Q1 「胸が大きいな」「ケツでかいな」等は、単なる冗談の一つです。大丈夫ですか？
- Q2 女子選手は、生理の関係で調子に影響が出ます。選手の生理について把握し、状況を知る為に、常に質問しても問題ないですか？
- Q3 選手とマッサージしながら会話することで、体調管理を行なうとともにコミュニケーションをとっています。異性ですが、問題ないですか？

- 事例1 ある指導者が教え子に対し、寮や合宿中に「わいせつ行為」を繰り返した。
- 事例2 Tシャツの上から胸をじろじろ見てきて、「下着が透けてるぞ」などと言ってくる。
- 事例3 寝技などの練習中、不必要にお尻や胸を触ってくる。
- 事例4 試合中、柔道衣が汗で濡れて透けていたり、Tシャツの首の部分が伸びている時を狙って写真を撮ってくる。



Answer セクハラとは、「相手を不快にする、性的な言動」のことです。その行為が性別や意図的であるなしに関わらず、被害者や周りの人にとって不快なものであれば、セクハラとなります。柔道界では、時に指導者が選手に対して「絶対的権力」を有している状況が見られます。その関係性から、寮生活、合宿や遠征等で多くの時間と空間を共有する中、指導を口実とした身体接触(稽古中不必要に尻や胸を触る/無資格者によるマッサージや、密室の空間に2人きりになる等)が当然のことのように行われている現状があります。柔道にたずさわる人々が、安全に楽しく活動できるように、「柔道界においてセクハラは絶対に許さない」という強い姿勢を社会に示していきましょう。

6 プライバシーの侵害

7 セクシャルハラスメント



## 生徒間の暴力・指導者/関係者の黙認・指導者の指示による学生間の暴力・私的交流におけるトラブル

- 事例1 生徒間の暴力・指導者の黙認** - 校内、道場、寮で上級生から下級生へ殴る、蹴る等の暴力や恐喝行為が繰り返されていた。
- 事例2 パワハラ・体罰が行われている場に居ながら、制止せず傍観** - 問題行動があった生徒に対し、ある指導者が、稽古中に「叩きつけるような投げ方」「故意に絞め落とし気を失ったところをビンタ」等を行った。副顧問も稽古に参加していたが、制止せず傍観していた。
- 事例3 指導者の指示による学生間の暴力** - ある大学指導者が先輩部員に対し、遅刻するなど生活態度が悪い部員を厳しく指導しろと指示した。先輩部員は、練習でしごき（殴る、蹴る、絞め落とす等）、私生活でも暴力が常態化した。
- 事例4 柔道関係者の私的交流におけるトラブル** - 県の柔道行事のあと飲食、二次会で行きつけのスナックに行った。Aが言葉遣いを叱責したところ、Bが従わず口論となり、Bが首筋を掴みかかる等の行動に出て、Aも相手の顔面を殴る等の暴力を加えた。



**Answer** 「あらゆる暴力やハラスメントは、しない・させない・許さない」という強い意識を常に持って指導に当たることが大切です。自身が気を付けるだけでなく、コンプライアンスに問題のある行動を見かけたら、黙認や隠ぺいせず改善に向けた適切な行動をしましょう。指導者・選手・関係者全員が、「暴力や暴言は許されない」ということをしっかりと認識し、自由に意見を言い合うことのできる組織、チーム・環境を作ることを心掛けましょう。

## ご相談窓口

全日本柔道連盟ホームページ(<https://judo.or.jp>)から「全柔連について」→「ご相談の窓口」へ進んでください。

### 都道府県柔道連盟(協会)

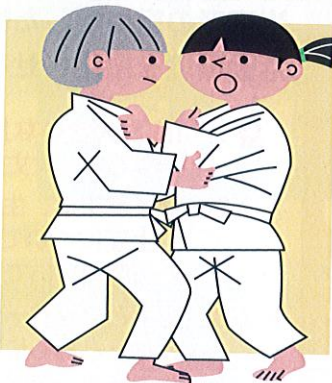
都道府県柔道連盟に関することは、都道府県窓口担当者にご相談ください。

### 全日本柔道連盟「柔道目安箱」

- 対象者**：どなたでもご利用できますが、内容によって、全日本柔道連盟が対応する場合と都道府県柔道連盟が対応する場合があります。
- 受付方法**：封書またはメール  
※全柔連HPの「ご相談の窓口」から「柔道目安箱」を選択し、「投稿フォーム」に記入してご送付ください。  
(メールの場合、担当者からの返信を受信可能な状態にしてください)
- 郵送先**：〒112-0003 東京都文京区春日 1-16-30 全日本柔道連盟 倫理推進室「柔道目安箱」係
- メール送付先**：rinri@judo.or.jp

### 全日本柔道連盟「内部通報制度(コンプライアンスホットライン)」

- 対象者**：全柔連登録会員、全柔連及び加盟団体の役職員  **受付方法**：封書またはメール  
※全柔連HPの「ご相談の窓口」から内部通報制度(コンプライアンスホットライン)を選択し、「受付表」に記入してご送付ください。窓口は2ヶ所あります。(メールの場合、担当者からの返信を受信可能な状態にしてください)
- 郵送先**：〒105-0003 東京都港区西新橋 1-21-8 弁護士ビル 807号  
あたらし橋法律事務所 赤堀文信弁護士気付 全柔連コンプライアンスホットライン
- メール送付先**：akahori@atarashibashi.com
- 郵送先**：〒107-0052 東京都港区赤坂 7-5-7 赤坂光陽ビル 5階  
山田・尾崎法律事務所 山田奈美香弁護士気付 全柔連コンプライアンスホットライン
- メール送付先**：n.yamada@yamada-ozaki.com



## 「暴力・パワハラ・セクハラ」を起こさないために

### 1. 勝負がすべてではありません

柔道には、負けて学ぶことも多くあります。「勝敗」以外にも大事なものがあつたことを認識し、勝利至上主義に陥らないようにしましょう

### 2. 加害者も、被害者も不幸になります

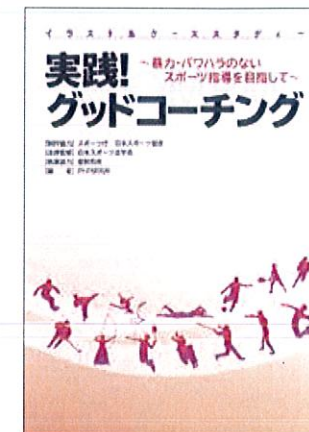
「暴力・パワハラ・セクハラ」は、被害者だけでなく、加害者にとっても不幸をもたらすことを自覚し、思わず手が出そうになったり、暴言を吐きそうになったときには、自分を抑える忍耐力、コントロールする能力を持ちましょう。他者を支配できると思っははいけません

### 3. プレーヤーの自発性を引き出すコーチング

プレーヤーの気づきを促して、自ら考え、工夫することを通して成長へと導いていく指導を基本としましょう

### 4. 学び続ける姿勢を持つ

コーチングに関する最新の情報を手に入れ、プレーヤーに新しい技術や知識などを的確にアドバイスできるよう、指導者自らが常に学び続ける姿勢を持ちましょう



実践! グッドコーチング  
～暴力・パワハラのないスポーツ指導を目指して～  
PHP 研究所

## 柔道 MIND 活動のねらいを、今一度考えてみましょう

相手への尊敬、信頼を示すものが礼法であり、他人に依存していることを自覚するのが真の「自立」です。それにより相手への感謝、尊敬の念が生じ「礼節」となります。さらに、「M 礼節」と「I 自立」の相互作用により正々堂々とした「N 高潔」さが示され、自ずと信頼が寄せられるようになり「D 品格」が完成されます。木を成長させていくことで、この相乗成長する過程をデザインして、柔道 MIND をわかりやすく表現いたしました。



嘉納治五郎師範は、「世の中の為に有為な人間を育成する教育理念」を最も重視しました。師範は、柔道を学ぶ者が到達すべき最高の目標として、

「精力善用」(善を目的に心身の力を最も有効に使用すること)

「自他共栄」(自分と他人との調和をはかり、お互いが繁栄して行くようにすること)

という言葉を残されました。この2つの言葉の意味をしっかりと理解するとともに、日々鍛錬し技を磨く中で、心の修養に努め、「自己を完成し、世の中の役に立つ人になる」という究極の目的に向かって努力して行くことが最も大切なことです。柔道修行は、人として正しく成長する為に有用であるばかりでなく、望ましい社会を作り出すことにも大きく貢献できる要素を持っています。

